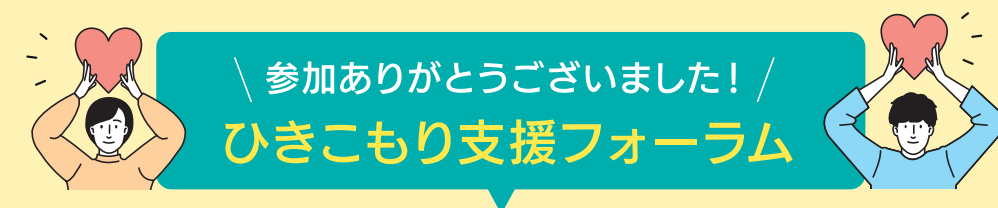


すべての子ども・若者に「安心」と「希望」を！ HAPPY MIE PROJECT

近年、ひきこもりが深刻な社会問題となっています。
その背景は個別のケースごとに異なりますが、少子高齢化や核家族化、地域コミュニティの機能低下などの社会変化が加わり、8050問題に代表されるよう、課題が複雑化、深刻化、長期化している実態があります。
このような中、三重県は、令和3年度に、外部有識者を

含めた検討委員会を設置し、ひきこもりに特化した推進計画を新たに策定し、令和4年度から新たな体制に基づく対策を進めていく予定です。
ひきこもり支援は、県をはじめ各市町、企業や関係団体などが、官民協働で、県民とともに取り組んでいくことが必要です。



三重県社会福祉協議会にも
ご後援いただきました！



4月10日、四日市市文化会館において「ひきこもり支援フォーラム」を開催しました。
主催は、私を含め「ひきこもり支援を考える三重県議会議員有志の会」です。
ひきこもり支援について、県民はじめ各関係者の皆様と共に課題を共有し、今後の取り組みに活かしたいと願っての開催です。当日は、当事者(家族含む)、自治体職員、福祉や医療、教育等の関係者、民生委員など、約450名の参加がありました。
今回のフォーラムで明らかとなった課題をふまえ、「アウトリーチと重層的な支援ネットワークで多面的アプローチ」ができる環境づくりに、今後も取り組んでいきます。

..... 当事者(家族含む)からの感想の一部を紹介します！

三男が不登校から社会へ出ることに不安を感じています。親が他者に支援を求めること、とても大切ですし、実際、当事者家族の多くが、SOSを様々な機関に出しています。しかし、現状は、十分な支援となっていないことが悲しいほどあります。

多くの情報をいただき、ひきこもりやその家族に希望が見えたと感じました。少しでも、家族のひきこもり問題が明けていくよう、このような取り組みに感謝しております。

答えがなく、本人もどうしていいかわからない問題。ひきこもりからどう立ち直らせるかだけでなく、社会から孤立しない、支えあう支援体制をつくって欲しい。

より良い
三重を！
条例制定の
取り組み
2021年
4月1日
施行!!

性の多様性を認め合い、 誰もが安心して暮らせる三重県づくり条例

- 性的指向又は性自認を理由とする不当な差別的扱いをしてはならない
- 性的指向又は性自認の表明に関して、強制し、禁止し、本人の意に反して、正当な理由なく暴露してはならない

「三重県パートナーシップ宣誓制度実施要綱」
(2021.9.1 運用開始)

三重の木づかい条例

- 県産材を優先的に利用し、森林資源の循環利用を図ることで、豊かな森林を次世代に継承
- 木材の経済的価値の向上
- 木材の優れた特性を生かし、県民や事業者の自発的な取り組みを推進

条例制定めざして 検討中です！

- 差別解消を目指す条例検討調査特別委員会
- 花や木で健やかな三重をつくる条例策定調査特別委員会



県政・県議会に対しての
ご質問やご意見をお待ちしています。



杉本ゆや事務所 〒514-0003 津市桜橋2丁目142
TEL 059-226-6252 FAX 059-227-7139

YOU(あなた)とYUYA(ゆや)をつなぐYY(わいわい)通信

夏号
2021年

YY通信
26号

ゆや 活動報告

発行責任者／三重県議会議員 杉本熊野

新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会経済活動のあらゆる分野に甚大な影響を及ぼし、安全・安心な暮らし、医療体制の整備、雇用の維持・確保など、これまでの社会課題が、改めて浮き彫りになっています。
また、「新しい生活様式」等、人と人とのつながりが制約される日々に、誰もが人とつながることの大切さに気づかされています。

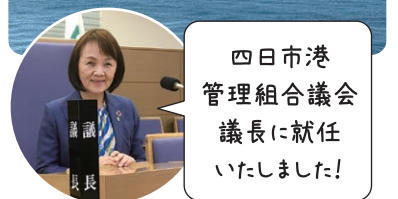
7月1日現在、感染者の受け入れ病床は436床を確保し、宿泊療養施設は240室を確保しています。また、クラスター発生等のリスクが高い高齢者施設や障がい者施設の従事者を対象に、PCR検査を集中的に実施し、感染の早期発見や施設内での感染拡大防止につなげています。

ワクチン接種については、各市町において高齢者向けから接種が始まり、今、希望される方が一日も早くワクチン接種ができるよう取り組まれています。

しかしながら、依然として、命と健康に対する不安を抱える方、日々の暮らしがたちゆかない方、誹謗中傷などに苦しむ方なども多く、社会的に立場の弱い方々が、より厳しい状況におかれています。

これらの状況をふまえ、今後とも現場の実態と暮らしの中の切実な声を、あらゆる場面で訴えてまいります。

今後とも、皆さまのご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



四日市港
管理組合議会
議長に就任
いたしました！



2021.5.1

Deaf(デフ:聴覚障がい者) Blind(ブラインド:視覚障がい者)
Guide(ガイド:伴走者)の頭文字からのネーミングです

三重DBGラン体験会 初開催しました!!

三重DBGランナーズは、視覚障がい者や聴覚障がい者が伴走者と一緒にマラソンと伴走の練習をする会です。

毎月第一土曜日の朝9時半から、サオリーナ外周ランニングコースにて、定期練習を行っています。それぞれが自分のペースで楽しく汗を流し、県内外のマラソン大会にも出場しています。
5月1日、初めて「三重DBGラン体験会」がサオリーナで開催されました。

三重県在住かつ在勤・在学の視覚・聴覚障がい者のランニング初心者および伴走にご参加いただきました。

「マラソン大会に出てみたいけど、伴走者が見つからない」

「走ったことがないので、一度ジョギングをしてみたい」「障がい者の伴走をしてみたい」など、興味のある方は、是非定期練習にご参加ください。

私は、三重DBGランナーズの活動を応援しています！



2021年
6月16日

一般質問に立ちました！

本会議を傍聴・テレビ視聴して下さった皆さん、ありがとうございました！



障がい者スポーツのさらなる推進を！



質問

1



「三重とこわか大会」の成果の継承について

三重県は、「三重とこわか大会」を契機に、選手の発掘・育成、支える人づくり、環境整備等に取り組み、スポーツによる障害のある人の社会参加を推進してきました。

この成果を一過性に終わらせることなく、今後、どう継承し発展させていくのか。

私は、共生社会の推進に、スポーツは大変有効だと実感しています。障がいの有無にかかわらずスポーツを共に楽しむ三重が、「三重とこわか大会」のレガシーとなるよう期待します。

子ども・
福祉部長
答弁

各種目のチーム結成は、平成23年度は4競技・4チームでしたが、平成27年度には、7競技・12チームに拡大し、「三重とこわか大会」には全団体競技に出場。令和2年度末で298人の育成選手を指定し、435人の障がい者スポーツ指導員が登録。今後は、競技団体や選手を支援する仕組みづくりや、より身近な地域でスポーツを体験できる場の創出に取り組みます。



質問

2



障がいのあるスポーツ選手の競技力向上について

これまで、障がい者スポーツの振興は、障がい福祉課が担当してきましたが、今後は、一定レベルまでに達した障がいのあるアスリートの競技力向上については、健常者と同様に、スポーツ担当部局が推進していくべきと考えるが、どうか？

国体・全国
障害者
スポーツ大会
局長答弁

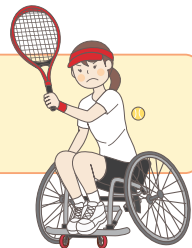
障がい者も健常者と同様の形で、トップアスリートとして強化指定し、その活動支援を行うことについて、子ども・福祉部と十分に協議を行い、連携の在り方について、今後しっかりと検討していきます。

「三重とこわか大会」を契機に、世界をめざしたいという選手が育ってきています。より速く、より高く、より強く、高みをめざすパラアスリートたちに、健常者と同様の支援を！



三重国体の開催が正式決定されて8年。

私は、この間、積み上げてきた努力の成果を、今後につなげていかなければならないと強く思っています。



「雲出川水系流域治水プロジェクト」の着実な推進を！

質問

1



県管理河川赤川の整備について

赤川流域の須ヶ瀬地区、宮古地区、平生地区の3地区は、30年計画である雲出川整備計画を一日も早く進め、赤川の整備を促進することを強く訴えています。

今後、県は赤川整備をどう推進していくのか？

県土
整備部長
答弁

地域からの強い要望をふまえ、今年度から赤川整備計画の検討に着手しました。雲出川の国直轄事業の水門整備や堤防かさ上げ等の対策を前提に、赤川の河道拡幅や堤防整備等の具体的な対策の検討を進めます。計画策定は来年度となる予定ですが、スピード感をもって進めていきます。



いつも
被害が大きい
JAカントリー
エレベーター
周辺

質問

2



波瀬川と雲出川の合流部の整備について

波瀬川は雲出川との合流部が一番狭く、そこでぶつかり合う流れになっています。三重河川国道事務所は、今後、現地調査、計画の見直し、設計を行う予定ですが、県から国へ、地元の現状をしっかりと届けていただきたいが、いかがか？

県土
整備部長
答弁

雲出川と波瀬川の合流部は国管理であり、堤防のかさ上げや河道掘削が計画されています。6月11日、三重河川国道事務所とともに、現地確認しました。一日も早く事業がすすむよう、国に対して強く要望していきます。



「三重県子ども条例」制定から10年！条例の在り方の議論を！

頻発する児童虐待

2016年：四日市市／当時6歳児の虐待死
2020年：亀山市／当時5歳児死亡（虐待の疑い）
コロナ禍の中、三重県の虐待相談件数は、過去最高

ヤングケアラーの実態 ※厚生労働省調査

「世話している家族がいる」と回答したのは

中学生の 全日制高校生の 定時制高校生の 通信制高校生の

▶5.7% ▶4.1% ▶8.5% ▶11.0%

質問



この10年間、子どもの権利に関する法律が、次々と改正されています。「三重県子ども条例」施行10年を迎える今、子どもの権利条約にたちかえり、国の法改正もふまえ、三重県の子どもの事態を捉えなおしながら、条例の在り方を議論していくべき時期だと考えますが、知事の見解はどうか？

鈴木知事
答弁

現在、児童虐待の深刻化に加えて、子どもの貧困、ヤングケアラーなどの新たな課題が顕在化しています。令和3年9月から外部専門家参加のもと、これまでの取り組みで不足している部分を洗い出し、課題解決に向けた方策を検討し、施策に反映させていきたい。そのうえで、必要があれば、新しい計画の策定や、条例の見直しも含めた検討をすべきと考えます。

子どもを
取り巻く状況は
厳しさを
増しています



2021年
活動
アルバム



2.21 美杉町で高田短大生と植樹



3.5 伊勢茶振興、茶柱タツさんです！



3.7 テイクアウトで地域づくり



3.8 交通安全対策に感謝！



3.26 感染防止を徹底し全国大会



4.4 世界自閉症啓発デー 特別企画 三重県自閉症協会 作品展



4.11 地域のつながりづくりのために



5.8 朝日屋さんが子ども食堂に協力！

人と人との
つながりを大切に
活動しています！